

之を我國の物貨と信ずる程なるは、全く日露戦争の結果とす。故に狡猾なる商人は、天津其他の製品を、日本品なりと稱すと云ふ。斯る物品が、果して善良のものなれば、深く憂ふるに足らざるも、若し不良の物貨ならんには、看過すべからざるの大事に非ずや。兎に角に日本商人は、此機を逸せず、盛んに我國品を輸入せざるべからず。予は切に我商人の奮發一番を望む。而して我國品を輸出するに、二方法あり一は天津商と結託し、張家口より沙漠を横斷するもの、他は日本人自ら張家口を経て、直接に輸入すること是なり。新疆は、未だ日本と清國との間に開放し在らずと雖も、新疆に於て、日本品の輸入を禁せざる以上は、別に差支なからずや。現に無條約の英領印度商は、南路到る處に商賣し、其官マカートニ氏は、喀什噶爾に駐在して、清官の之を遇する、露國領事と差異なし。況んや新疆の人民は、勿論、地方官の中にも、日本商人の來るを喜ぶとの意を漏らす者少なからざりしをや。

日本より輸出して、見込ある商品は、絹布其他の反物類、殊に綾織綿子ル類、藥品(諸賣)陶器、マッチ、煙草其他日用雜貨類等最も妙ならんか。又新疆より我國に輸入すべきものは、羊毛、牛皮、砂金等を可とせん。